

社会福祉法人 育夢

令和 6 年度 事業報告書

生活介護 糸をかし
共同生活援助 ほづみのお宿

令和 6 年度事業報告書

目次

1. はじめに
2. 運営理念
3. 基本方針
4. 生活介護事業計画
5. 共同生活援助事業計画

1. はじめに

令和5年は糸をかし開設準備期間から30年、また社会福祉法人育夢開設20年を迎え、利用者、保護者、職員と記念会食を開催しこれまでの歩みが有意義であったことを実感し、新たな気持ちで令和6年を迎えました。

これからの5年、10年は福祉事業を取り巻く環境、家族の形、利用者の加齢に伴う様々な変化が予測され、事業が継続される形態の模索、家族の安心、利用者の心身ともに豊かな生活の提供など、変化への対応力が試されることになります。

長期に渡り共に歩んできた保護者のみなさまとの信頼関係、利用者のみなさんの安心と充実した日々の提供を育夢職員全員で覚悟を持って取り組んでいきたいと思えます。

2. 社会福祉法人育夢 運営理念

「生き生きはじめて、変・身・心!!」

障害のある人たちが集団の中で、共に楽しみ、共に生きることの体感を通して心身のリフレッシュを図り、生きがいを見出し、自信をもって生活できる支援を行う。

3. 基本方針

【運営安定に向けた取り組み】

- ①利用者定員の確保に努める。(欠員：糸をかし：0名・ほづみのお宿：3名)
- ②利用者基準利用日数(23～27日)に伴う営業日数の増加を図る。
- ③人員配置基準に伴う職員を配置できるよう、支援体制を強化する。
- ④障害特性に応じた資格を取得するなど、加算報酬の条件を整備する。
- ⑤事業継続計画(BCP)に沿って、災害や感染症などが生じても最低限の福祉サービスが維持提供できるよう努める。
- ⑥ICT導入(ほのぼのソフト)による事務の合理化と情報共有を図る。
- ⑦防犯カメラ設置(糸をかし、ほづみのお宿、すずめのお宿)による、事故やケガ、侵入などの防止を図り、安全対策に努める。

*利用者定員において、9月にホーム2名(男女1名ずつ)の増員となり欠員は1名(うららのお宿)となる。糸をかしにおいて、定員20名(契約数24名)に達しているため増員予定はなし。

- * 営業日数において、月 4 回土曜開所、夏冬長期休暇の 2～3 日、祝日の開所が定着。
- * 人員配置基準は、糸をかしにおいて利用者 1 人に支援者 1.5 人体制となり支援者数の確保はあるが、ホーム兼務もあり活動への支障もある。
- * 事業継続計画（BCP）の全体共有と他団体との連携による都度のバージョンアップの継続が必要。ホームにおいて防災士を招いた全体研修を実施。能登半島地震の現況から、南海トラフ地震への危機管理意識が高まった。
- * ICT 導入（ほのぼのソフト）は、機材の取扱いを学びながらの使用となり機能習得まで時間を要するが、課題整理をしつつスタッフ連携のもと事務の合理化を目指す。
- * 防犯カメラ設置において、怪我や支援の在り様などを検証する手段として有効的な利用ができています。
- * グループホームにおいて、ほづみのお宿管理業者より本格的な売却の相談があり 6 月理事会、評議員会と保護者定例会での説明と承認を受けて 12 月に購入手続きが完了した。

【支援サービスの向上】

- ① 今後の法人事業について、形態や取組みについて家族からの意見を傾聴し、また個別支援計画を基に利用者を中心とした事業の継続を目指す。
 - ② 糸をかし、ほづみのお宿において、利用者個々のニーズが実現できるよう職員体制の整備や支援技術を高める機会（施設内外研修など）を提供する。
 - ③ 糸をかしにおいて、活動グループを 3 グループ（(1) 体力維持と強化 (2) 経験、体験を通して自己啓発 (3) 製造、生産による収益）に分け、各グループ活動の充実と健康管理、表現活動、余暇活動などは共有活動として取り組む仕組みを作る。
 - ④ グループホーム（4 住宅）が、家族にとっても利用者にとっても安心で有意義な生活拠点となるように環境整備（身体変化に伴う機器や備品。外部サービスの利用など）に努め支援体制の強化と緩やかな生活リズムの定着を図る。
- * 2 ヶ月に 1 回保護者との定例会が再開し、家庭での様子や事業所内の取組みなどの共有機会となり利用者支援の充実につながっている。
 - * 支援体制の不足に対して、随時必要な求人を継続的に行い職員採用につながった。
 - * 初回防災研修については、防災食作りや災害時の心得など日々危機感を持つことの大切さを学び継続的な実施を講師に依頼する。

- *令和4年から実施の介助技術研修は、支援者からの要望も強く継続実施を依頼し、介助において相互の安心作りに努めている。
- *3月に虐待防止研修を外部講師を招き実施。グループホームにおける虐待数の多さや、支援におけるグレーゾーンなどを共有し、丁寧な対応を共有した。
- *活動において4グループでの活動計画を立てたが、支援体制の状況により定着した展開ができなかったが活動内容を工夫しながら継続できた。
- *グループホームにおいて慎重に増員機会を思考する中、9月より新たに2名が利用開始となり、先住者との関係に配慮しながら、支援内容について保護者関係機関からの情報を支援者間で共有し、ホーム生活の安心と定着に努めた。

【地域社会における役割と連携】

- ①地域交流の機会として、自主事業（ぬくぬく劇場。服部織人フェスタなど）の再開や、陶芸工房やこんにやく工房を体験の場として開放する。また地域イベントにちんどん活動での社会貢献や収益活動の場として積極的に参加する。
 - ②市内福祉サービス事業所との交流として、障害者啓発活動委員会、施設長会、自立支援協議会（グループホーム連絡会）、なかまの店などでの情報共有や企画参画を通して連携を深める。
- *服部織人フェスタの再開を目指して、土曜開所時に近隣の子どもたちやその家族を対象に糸をかしを開放して、11月に模擬店や遊びのワークショップなど簡易なぬくぬく劇場を実施した。短期間の情宣であったが近隣公園の来場者も参加し賑わった。
 - *こんにやく工房のワークショップとして、箕面自由学園初等部の夏休み企画として依頼を受け、工程を工夫しながら試食や成形を児童と楽しく交流することができた。
 - *陶芸工房は、日月舎陶芸教室に週1回場所の提供。陶芸教室のみなさんより共同活動の提案を受けているが、配置職員の確保が課題となっている。
 - *行政、福祉サービス関連の会議や企画に積極的に参画し、情報収集と連携を深めている。

【家族・保護者連携】

- ①保護者定例会による情報共有や、父親会による懇親会などを通して信頼関係を深め、相互協力を持って事業の安定を図る。
- *保護者の加齢に伴う家族構成や支援の変化が生じているため、相談やサービス機関、また介護保険関連の紹介や調整などの対応を行った。

5. 事業内容

糸をかし（生活介護事業）

① 事業開始年月 平成7年4月1日

② 所在地

大阪府豊中市服部寿町3丁目18番12号

電 話 06-6868-2153

FAX 06-6398-7006

e-mail itookashi@s9.dion.ne.jp

URL <http://www.haghag.jp/>

③ 利用者

定 員 20人 契約者数 24人（男子8人 女子16人）

④ 【利用者状況】

（障害支援区分）

	人数	区分3	区分4	区分5	区分6	平均
男性	8人	1人	1人	3人	3人	5.6
女性	16人	2人	0人	4人	10人	5.3
合計	24人	3人	1人	7人	13人	5.25

（年齢）

	人数	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	平均
男性	8人		4人	2人	2人	0人	0人	0人	39.8
女性	16人	1人	1人	5人	5人	2人	0人	1人	52.0
合計	24人	1人	5人	8人	6人	2人	0人	1人	48.0

（令和7年3月31日）

⑤ 職員体制 総数 35人（常勤：8人 非常勤：16人 その他：3人）

管理者 1人（サービス管責任者兼務）

サービス管責任者 1人（管理者兼務）

総務（事務） 2人

医師（嘱託） 1人

看護師	2 人	
生活支援員	18 人	
その他(外部講師)	3 人	(書道、体操、アロマ)

⑥ 支援方針

障害を持つ人が、その人にあった日常生活を営むことができるよう、個別支援計画に基づき、身体介護（食事、排泄、静養、通院など）や日中活動（表現、創作、生産、基礎体操、余暇など）などのサービス提供を行う。

加齢に伴う身体変化に留意し、健康管理に重点を置き置きながらも、一人ひとりが積極的に参加できる活動を提供する。

⑦ 支援内容と活動目標

- (1) 創作（陶芸、書、アート）・表現（音楽）・歩行（清掃）を主たる活動とする。
目標として、経験や体験を通して個々の日常の充実を深め、可能性や自信の回復に努める。

* 創作活動においては 12 月の障害者週間に開催する啓発イベントのアート展に向けて作品作りに取り組んだ。

* 12 月 4 日～6 日に障害者啓発活動員会企画「素のままだ、ええやん」に参画。天性の創造グループの作品を多数出展し、来場された豊中市長より小谷明子さんの書作品「素」を市長室前に展示していただく経緯となった。

* なかまの店や啓発イベント等で作品を用いたグッズ商品、ポストカードを販売

* 3 月豊中市立文芸センター「子どもアートの日 2025」に出展参加。

* 第 16 回サブローごまデザインコンテストに応募し、白濱広美さんの作品がホルベイン賞を受賞する快挙となった。

- (2) こんにゃく製造・内職・創作（天性）・販売促進など収益活動を主たる活動とする。

目標として、自主販売の企画や外部販売機会の拡張。新規製品の開発や安定に向けて計画性を持って取り組む。

* 夏のお中元商戦の注文数は 97 セットで 116,400 円の売り上げとなる。

* 地域のお祭りやイベントに積極的に参加した。

* 4 月より月 1 回福祉の店なかまにて販売を実施。保護者の方の協力もあり販売機会が増え、こんにゃくやオリジナル雑貨の収益につながった。

* 箕面自由学園初等部にて初の試みとなるこんにゃくワークショップを実施

。する

当日 40 名を超える生徒さんが参加。こんにゃくづくりを通して交流する機会となった。

- * 午前活動での廃品回収を実施し上期売り上げが 15035 円、下期は 13,120 円となった。(主な回収先として新生加工所、JA 服部、JA 庄内、フォルクスワーゲン)
- * 糸をかしの前の新生加工所の事業終了に伴い、紙管の提供が無くなり 3 月から大幅に回収量、収益が減り継続も含めて今後の課題となる。
- * 地域イベントや毎年参加しているイベントに、こんにゃく販売やあてものゲーム、綿菓子販売など積極的参加した。綿菓子の販売は、利益率もよく購入者からの評判も良かった。
- * なかまの店では、こんにゃくは月ごとに購入数が増加。販売において保護者の協力やメンバーの販売員としての意欲も高く、良い経験となっている。
- * 年末商戦について、令和 6 年度は 464 セットの購入があり、548,600 円の売上げとなる。令和 7 年度では、販売促進については職員全体で営業強化に努める。
- * 作業するメンバーの高齢化や体力面を考慮するなかで、活動に参加するメンバーの入れ替えの検討が必要。
- * 外部連携（豊中市小売り商業団体連合会）の収益活動として、「なかよくはじめまし店」の売り上げは 110 万円となり、約 20% の 260,000 円を利用者還元金とした。

(3) 体幹トレーニングや歩行を主たる活動とする。

目標として、健康、身体機能の維持、筋力、体幹、骨密度などの強化を図り、心身ともに元気に過ごすことを目指す。

- * 利用者の健康維持、向上を目指しウォーキングを実施した。猛暑により歩行が困難な期間が続き、肥満傾向の対象者は猛暑期を過ぎた下期より歩行を再開し、個人として減量につながった利用者も見られたが、今後も体重の減量に向けた取り組みを続ける。
- * 基礎体力向上グループは午前の活動にてストレッチや体幹トレーニングを継続。
- * 加齢に伴う身体機能の低下が顕著に表れた年度となる。残存機能維持のための取り組みや支援方法について、福辺講師に相談をしながら職員で共有する。

(4) 全体活動として、健康維持活動の歩行や体操。表現活動の音楽や歌、踊り、

演劇。ちんどんや人形劇公演。余暇活動の個別、全体外出や季節行事、はぐくむ農園の手入れや収穫、調理などを楽しむ。

* 久々となる宿泊旅行実施。全体旅行を見直し、2グループで日程を分けて淡路島観光に行く。宿泊に負担感のある利用者は、個々のニーズに合った日帰り外出を計画しディズニーオンアイスの観覧、美味しい昼食を楽しむ。その他、活動グループでの日帰り外出を実施した。

* はぐくむ農園では5月末に玉ねぎの収穫を行った。収穫物はカレーにしたり各ホームに分け有効に利用。6月以降は夏野菜としてミニトマトとなすを育てる。猛暑時期から利用者同行での定期的な草抜きが出来ず課題となった。年度途中より農園作業の継続は難しいと判断し活動は終了することとなる。

* 経験体験グループによる発表の場を目指した表現活動の取り組みは、グループとして進めることは出来なかったが、合同のレクリエーションとして音楽や踊りを楽しむ時間を作った。

* 上期ちんどんは4公演、下期は4公演、計8公演実施。新規依頼先として、豊中市内の老人施設や大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻より、2月開催のイベントへの出演協力の依頼を受け、合同練習をしイベント参加する。継続して音大講師と利用者の音楽交流を進めることとなった。

【日課】

時間	活 動 内 容
8 : 4 0	① 送迎開始
9 : 0 0	② 送迎開始（徒歩同行） 送迎者到着・健康観察（検温・体重・血圧など）
1 0 : 0 0	朝会
1 0 : 3 0	活動開始 午前グループ活動
1 1 : 3 0	午前活動終了
1 2 : 0 0	昼食 準備片付け・服薬・口腔ケア
1 2 : 4 5	休憩、余暇 散歩・買い物・お絵かき・小児鍼・ドライブ
1 3 : 1 5	活動開始 午後グループ活動・全体活動
1 4 : 4 5	活動終了
1 5 : 0 0	終会
1 5 : 3 0	送迎開始（徒歩同行） 清掃・事務処理・記録簿整理

17:00	スタッフミーティング 業務確認
17:30	残務整理
18:00	業務終了

【年間行事予定】

月	行事	その他 (地域行事)	月	行事	その他 (地域行事)
4	お花見		10	<u>グループ外出</u> <u>みかん狩り BBQ</u> (10/29 実施)	服部商店街イベント 赤い羽根幹旋販売 吹田綿菓子販売 なかまの店
5	<u>グループ外出</u> <u>大野山アルプス新緑</u> <u>ドライブ</u> (5/20 実施)	なかまの店	11	ぬくぬく劇場 (11/4 実施) <u>グループ外出</u> <u>温泉同好会</u> (11/6 実施)	さんあいイベント 農業祭 豊中市幹旋販売 なかまの店
6	<u>グループ外出</u> <u>山南にて BBQ</u> (6/17 6/21 実施)	摂津市民福祉祭り お中元商戦 なかまの店	12	クリスマス忘年会 (12/24)	啓発総合イベント 素のまがええやん (12/4～6) 年末商戦
7	宿泊旅行 7/4～5 7/11～12	なかまの店	1	新年会 (1/9)	
8	<u>グループ外出</u> <u>ディズニー on アイス</u> (8/30 実施)	服部商店街イベント 箕面自由学園こんにゃく ワークショップ なかまの店	2	節分企画	
9		庄内南小学校祭り わくわくフェスタ なかまの店	3	ひな祭り	ポッチャ大会 なかまの店

※その他：地域行事への参加 随時 グループ外出

【土曜日・休日支援】

- ・土曜日は開所とし、平日と異なる社会参加の機会提供や、緩やかな時間の

中で仲間と活動を行い、協調性や仲間意識を養う。

- ・休日(祝日・代休)は必要に応じて開所し状況に応じた支援を行う。

⑧ 健康管理

- ・健康チェック(体温・排泄・生理・睡眠など)による日々の体調把握。
- ・年1回の集団定期健康診断の実施。
- ・予防接種(インフルエンザ、その他)の実施。
- ・週1回訪問歯科サポートによる、口腔内の清潔保持と歯科通院の迅速な対応。
- ・個別健康データーによる基礎疾患や成人病への把握と必要に応じた通院支援の実施。
- ・月1回嘱託医師の訪問による個々の健康状態の把握。
- ・鍼灸師(柔道整復師)の訪問施術による、個別健康維持の強化。
- ・リズム体操(外部講師)を通して、身体を動かし運動不足の解消と心身ともにリフレッシュを図る。
- ・アロママッサージ(外部講師)を通して、気持ちの安定とリフレッシュを図る。
- ・訪問美容師によると頭髮カットによる身だしなみや清潔の保持に努める。
- ・福辺流介助術(主に身体機能に障害のある人への介助技術)を継続し、個別に必要な介助術や、環境整備について学び、日々の安心につなげる。
- ・感染症への知識の強化と、発症時の適切な対応について把握し、全体周知を図り蔓延を防止に努める。(コロナ、インフルエンザ、ノロ他)

*インフルエンザ流行に伴い年末に感染が拡がることとなった。その他上記の健康管理項目については概ね出来ている。

*今年度より月1回精神科医の訪問受診が実施され、通院不安がある利用者も定期的に様子を見ていただく機会となった。

⑨ 防災管理

- ・事業継続計画(BCP)の周知と、災害(火災・地震・台風・津波・洪水)時への対策準備と安全確保に努める。
- ・年2回以上の防災訓練実施(うち1回は消防署員立会い)

*防災士を招いてグループホームスタッフを対象とした防災研修を実施。来るべき災害に向けて出来ることや、防災食の実演、能登の悲惨な現状を知ること意識付けにつながる機会となった。

⑩ 研修

- ・個々のスキルアップにつながる研修機会の提供。
- ・職員が共有（障害特性、支援技術、虐待防止、他制度など）して学べる機会として、施設内研修の充実を図る。

ほづみのお宿（生活援助事業）

① 事業開始月日 平成18年10月1日

② 所在地

ほづみのお宿 大阪府豊中市服部寿町1-3-5
 電 話 06-6864-8585
 うららのお宿 大阪府豊中市服部西町2-15-23
 電 話 06-6864-9000
 いちごのお宿 大阪府豊中市服部寿町2-1-3-102
 電 話 06-6866-1332
 すずめのお宿 大阪市豊中市服部寿町1-2-16
 電 話 06-6865-5381

③ 入居者

定員21人 現員数（女子14→15人 男子4→5人）

- ・ほづみ 定員5人 現員 4人→5人(9月より) 【夜勤 あり】
- ・うらら 定員5人 現員 4人 【夜勤 あり】
- ・いちご 定員2人 現員 2人 【夜勤 あり】
- ・すずめ 定員9人 現員 8人→9人(9月より) 【夜勤 あり】

* 9月より2名増員。うららのお宿1名欠員

【利用者状況】

（障害支援区分）

	人数	区分3	区分4	区分5	区分6	平均
男性	5人	1人	0人	1人	3人	5.2
女性	15人	2人	1人	4人	8人	5.2
合計	20人	3人	1人	5人	11人	5.2

(年齢)

	人数	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	平均
男性	5人	1人	1人	1人	2人	0人	0人	0人	40.6
女性	15人	0人	1人	5人	6人	2人	0人	1人	53.6
合計	20人	1人	2人	6人	8人	2人	0人	1人	50.4

(令和7年3月31日)

- ⑤ 職員体制 総数 49人
- 管理者 1人 (サービス管理責任者兼務)
 - サービス管理責任者 1人 (管理者兼務)
 - 世話人 16人
 - 生活支援員 28人 (糸をかし兼務12人含む)
 - その他 4人 (医師、看護師、事務)

*生活支援員の増員は糸兼務支援員によるもので、現場支援者は不足している。

*男女共に求人は継続対応中。

⑥ 支援方針

- ・利用者、保護者の意見を傾聴し、個別支援計画を作成する。
- ・月1回、男子、女子ホーム支援会議の実施による支援内容の課題把握を行い共有した支援ができるように努める。
- ・暮らしの場として、団らんや自由時間、休日の余暇活動の充実による精神的安定を目指し、安心して豊かな生活を提供する。
- ・健康管理に重点をおき、医療連携や機能維持に努める。
- ・加齢や身体変化に伴う支援や介助への知識や技術を学ぶ。

*月1回の支援会議において、現状と課題の共有、具体的対応の提示と実践が定着しつつあり、支援状況や利用者個々の生活に落ち着きが出てきた。

*通院頻度が上昇し看護師を中心に家庭、糸をかしとの情報共有の重要性が増す。

⑦ 利用者支援

①生活支援

- ・個別支援計画を基盤に、日々の生活の積み重ねによるQOL（生活の質）の向上を目指す。
- ・家事面（食事・洗濯・掃除・その他）での役割を担うなど、主体的な生活場面を提供する。

- ・加齢や身体変化に伴い、必要な外部福祉サービス（入浴・リハビリ・その他）の導入。
- ・感染症（コロナウィルス、インフルエンザ、ノロなど）や怪我や疾病において適切な判断と対応が出来る知識や実践力を身につける。

- *ヒヤリハット報告書より留意する点を共有し、障害特性を知り指示の仕方や言葉遣いを丁寧に行い、利用者の生活において混乱の軽減に努めた。
- *健康管理において、基礎疾患に加えた受診も増え、身体症状の変化を見逃さず重症化しないよう、迅速な情報共有と医療連携ができた。
- *怪我やトラブルなどの原因について、防犯カメラによる検証は有効的。
- *男子ホームにおいて、9月新規入居者（日中は外部事業を利用）の受入れに伴い、障害特性や生活状況の理解を深める為、関係機関と日々情報共有を行う
- *女子ホームにおいて、9月新規入居者（日中は外部事業を利用）の受入れに際し保護者との連携を深め、本人との会話も重ね不安感の軽減に努めている。

（日課）

	生 活 内 容
7 : 0 0	起床（着脱・更衣・洗面）
8 : 0 0	朝食（簡易な準備片付け・服薬・口腔ケア・清掃・洗濯）
9 : 0 0	通所（自力・同行・送迎車）
1 5 : 4 5	帰宅（休憩・洗濯取入れ・買い物・散歩・ゲーム・ビデオ）
1 8 : 0 0	夕食（簡易調理・配膳・片付け・服薬・口腔ケア）
1 9 : 0 0	入浴・自由時間（TV・ビデオ・ユーチューブ）
2 1 : 0 0	就寝（服薬）
2 2 : 0 0	入眠

- *日課において、食事、入浴、休息、就寝など個々の生活リズムにあった支援が定着しつつある。

②余暇支援

- ・休日や日々の個別余暇（散歩・カラオケ・おやつ作り・創作など）の充実。
- ・誕生日会や楽しい季節行事の実施。
- ・楽しさを通して入居者同士、また職員との信頼を深める場面作りに努める。
- ・居宅派遣事業所と連携（ガイドヘルプ利用）しながら、社会参加の機会を持つ。

- *居宅事業所のガイドヘルパーの確保が困難な為、土曜系開所時の利用者数が

増え、支援者調整が課題となっている。

* 休日ホーム待機時の支援者が不足な為、継続求人中。

* 長期休暇時の余暇内容などは、利用者の意見を聞きながら充実してきた。

【休日】

土曜日	糸をかし開所・昼食・おやつ作り・散歩・買い物
日曜日	ガイド利用・昼食・おやつ作り・創作・ビデオ・散歩
祝日	糸をかし企画・昼食・おやつ作り・ビデオ・散歩
夏休暇・正月休暇	糸をかし企画・季節食事（BBQ・焼肉・鍋・おせち

【余暇】

4月	誕生日会 お花見	10月	誕生日会 芋・栗おやつ
5月	誕生日会 ちまきおやつ	11月	誕生日会
6月	誕生日会	12月	誕生日会 クリスマス
7月	誕生日会 スイカ	1月	誕生日会 初詣
8月	誕生日会 焼き肉	2月	誕生日会 節分
9月	誕生日会	3月	誕生日会 ひな祭り

⑧ 健康管理

- ・健康チェック表（体温・排泄・生理・睡眠など）の作成により状態把握と情報共有を深める。
- ・食事管理によるメタボ・成人病予防に努める。
- ・服薬管理表の作成や提供の工夫により、飲み忘れのないように留意する。
- ・看護師を中心として医療機関への受診や相談などを迅速に行う。
- ・年1回の集団定期健康診断と個別健康診断の実施。
- ・月1回の精神科医（小曽根病院）の訪問受診の実施。
- ・予防接種（インフルエンザ・コロナウイルス・その他）の実施。

* 集団検診とインフルエンザ予防接種の合同受診の定着。任意によるコロナワクチンや高齢者への必要接種内容の案内と実施。

* 刻み食や服薬時のトロミ使用など、嚥下力低下への対応。

⑨ 防災管理

- ・事業継続計画（BCP）の周知と、災害（火災・地震・台風・津波・洪水）への防災対策の整備。

- ・年2回の防災訓練実施（火災・地震・不審者）
- ・夜間想定避難についてイメージの共有化を行い安心につなげる。
- ・防災設備やセキュリティなどの点検管理を行い、不備欠陥のないよう安全を確保する。
- ・近隣住民へのホームの理解と緊急時の協力体制作り。

* 防災士を講師に招いて、「日頃の防災の取組み」をテーマに防災研修を9月に実施。防災食の調理も実践し、南海トラフ地震への危機感と必要な備蓄品の再整備を行う。

* 市内グループホーム連絡会に参加し、地域や他ホームとの連携作りや、BCP計画のバージョンアップの反映機会となっている。

⑩ 地域交流

- ・挨拶の励行
- ・ホーム周辺の美化
- ・地域行事への参加
- ・自治会、福祉ネットワークなどへの参加

* 育夢美化習慣を設け、糸をかし職員、利用者共にホームの周辺清掃を一斉に行い、地域住民としての意識向上に努めた。

⑪ 研修

- ・必要に応じた施設内研修と、外部研修への参加環境を作る。
- ・人権・虐待についての研修
- ・身体機能の変化に対する介助（立位、歩行、嚥下など）方法の習得。

* 月1回福辺講師を招いて、近隣施設合同の介助術研修への参加と全体周知。

* 9月水上講師を招いて、南海トラフ地震への共有イメージと危機管理への意識強化を図った。

* 3月植田講師を招いて、虐待防止研修として「事業所における虐待/身体拘束適正化と支援の見つめなおし」を受講。呼称からはじまる意識変革を積み重ねて利用者支援の質を深めていくこと。支援者間の関係性を信頼と尊敬で築くことなど、意義深い研修となった。

* 月1回支援会議において、ヒヤリハット報告の内容を振り返り、虐待防止研修で学んだ内容を振り返り、課題共有と改善に努めた。